


## 「私の第一声⑫」

【ごあいさつ】

まずは、このコラムを初めて読まれる1年生の保護者・生徒の皆様にご挨拶です。校長の荒木です。この不定期コラムは、校長だよりの裏面が空いていてもったいないので、学校を運営している私の感じたことなどを書かせて頂くことで、三中のことを知ってもらうきっかけになればと、令和2年7月に始めました。表面とは違い、重要な情報はなく、お時間がある方のみ読んで頂けたらという位置づけで、No.1では、自分の生い立ちを書き始めていました。ところが入学式でも少し触れましたが、私は令和2年7月末に脳出血を起こして入院し、リハビリのための転院を経て、同年12月退院、令和3年1月より三中に復帰しています。結局No.2が出せたのが令和3年1月、そこからNo.9まで、倒れた時の経緯や病院での体験を書きました。その後、No.1の続きを「私の第一声」などNo.23（大学入学後、車の免許をとる）まで書かせていただきました。バックナンバーを三中ホームページの「校長室より」に掲載しています。ご興味のある方はぜひご覧ください。

**第三中学校ホームページ**では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。  
<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>



貝塚第三中学校HP  
貝塚第三中学校HP

【自分の世界を広げていこう】

ようやく大学へ入学しましたが、大学生になるために選んだ大学だったので、教育大学であるにも関わらず、教員になるために頑張ろうという気持ちは、最初はほとんどありませんでした。

私のいた国語科の小学校教員養成課程は50人ほどが同級生。中学校課程も10人ほど。仲間の中心メンバーとして、五月祭というイベントで、宴闌（うたげたけなわ）という店を出し、お好み焼きを売りました。楽しかったのですが、いいかげんな計画で、良い材料を使いすぎたので、売れば売れるほど赤字になった間抜けな思い出です。

大学生活を続けるのにお金が必要で、バイトを始めます。情報誌や大学にきている募集から探します。トラックの荷物の上げ下ろしをはじめ、肉体労働もいろいろ体験しました。嬉しかったのは、豊中市のイベントホールで設営や撤収作業をしている時に、山下洋輔のコンサートを担当できた時でした。彼はSF作家の筒井康隆の友人、ジャズピアニストで作家です。高校時代にテレビで見た、彼のピアノソロでの「ボレロ」の演奏は、その演奏のすばらしさに加え、クライマックスで拳や肘で鍵盤を叩くという表現のある衝撃的なものでした。憧れの人にサインをもらって有頂天になった高揚感を今でも覚えています。

一方、長く続いたのは帝塚山での塾講師と堺での家庭教師でした。ここで「子どもに教える」ことの楽しさと難しさを最初に知りました。

自主活動でやりたいと考えていたのは硬式テニスでした。しかし、高校時代にテニスの練習中に腎盂炎になったことや、浪人生で2年過ごすうち体育会系の運動部に入る気力を失っていたこともあり、結局選んだのは部活よりゆるいテニスサークルでした。また中学校の美術の先生の影響で絵が好きになっていたのも、美術部にも入りました。さらに美術部の先輩に誘われ囲碁部にも入ります。囲碁も楽しかったのですが、一時期は、美術部室と囲碁部室で、麻雀ばかりしていました。

【授業を大切にしようになったきっかけ】

入学当初は学習よりバイトや遊び優先だった私ですが、本好きだったので司書の資格だけは取ろうと考えていました。ところが、うっかりして司書資格に必要な大切な単位を申請し損ねます。仕方なくその分だけ他の大学で取ろうと思い調べてみると、当時に1単位2万円もかかるのです。資格を取る単位全部にかかる費用を考えるとびっくりするような金額になります。自分の大学なら、それらは学費に含まれます。たくさん単位を取り、その単位で資格を得れば、「むっちゃ得やん！」と思ったのです。

苦勞して大学に入ったのに、学習はいい加減にして、一方で目の前のお金欲しさにバイトばかりしていることの不合理さに、ここで気づきます。講義や授業を大切にすることは自分の未来への投資であり、資格や知識を得ることで、将来の自分の稼ぎも増やす可能性が高くなるのです。単位の高額さはそれをわかりやすく示してくれたのです。

それから私は、授業と学習を大切にしようになりました。

【不定期コラムNo.25】へつづく